

「NPT 再検討会議・ニューヨーク行動 日本原水協 Q コース」の報告
沢田昭二

4月29日

労働組合を中心とした Q コースの代表は全労連副議長の小松民子さん。私は Q の第 6 班（静岡自治労連の菊池智博さんが班長）に所属。Q コース 75 人は、成田 17:35 発の AA-154 便で、時差 14 時間のシカゴ・オヘア空港に 15:15 着。

バス 2 台で空港からシカゴ市内に向かう途中でちょうどラッシュ時間と重なり、南ミシガン通りの Essex Inn Chicago に到着したのはかなり遅くなった。

さっそくシカゴ市内を UE の労働者でシカゴ市の職員とアルバイトで働いているイリノイ大の学生の案内で散策しました。1970 年に Wisconsin 州であった Pugwash 会議の際シカゴ市を訪れたので 40 年ぶりでした。当時は、出来たばかりのシカゴ川*河畔の 2 つのトウモロコシと呼ばれている高層マンションは今でも異彩を放っていました。下の 10 階部分までが螺旋状の駐車場で、この建物だけですべてがまかなえるとのことで Marina City と呼ばれています。

シカゴ名物の分厚いピザを食べました。厚さは 3 センチ余り 8 等分した一枚でも食べきれないくらいのボリューム。2 種類の地元ビールもうまかった。





左 Wrigley ビル。 右 「とうもろこし」と呼ばれる高層マンション Marina City。

* シカゴ川は 1800 年代には、東に向けて流れてミシガン湖に注いでいたが、汚水と工業廃水が飲料水として用いられる湖水を汚染するので、1900 年に 28 マイルのシカゴ衛生施設と船舶用の運河が完成してミシガン湖からミシシッピ川に向かって流れるようになったという。

4 月 30 日

Illinois Labor History Society (イリノイ労働史協会、28E Jackson Blvd Chicago, IL 60604) の Larry Spivak さんと UE (United Electrical, Radio & Machine Workers of America) 西部委員長の Carl Rosen さんの案内でさっそく市内の労働運動の歴史遺跡を見学して廻った。全労連の国吉綾乃さんと新日本婦人の会国際部長の平野恵美子さん、それにオーストラリアの Sixty という放送ディレクターを私に紹介してくれたことのあるジャーナリストの松元千枝さんが通訳で大活躍して下さいました。最初に訪問したのは、シカゴ市の西にある、鉄道や運河で運ばれた家畜を貯蔵する広大な統合家畜一時置き場と世界最大の精肉工場 (Union Stock Yard) の名残の門を訪問しました。シカゴが精肉で全米を支配していたことと、その労働者が様々な人種の違いを乗り越えて連帯し、労働運動を発展させてきたことを学びました。

途中、弾圧に抗して毅然として闘う精肉労働者と、労働者が環境の良い職場を獲得したことを壁全体に描いた画のある家を見た後に、シカゴ市西郊にある



左 図の左側が弾圧者、右が労働者。



右 労働環境が改善された職場。



左 ハイマーケット犠牲者記念碑にけんかする小松さん。右 ギリシャ料理店での交流。Forest Park の墓地のハイマーケット事件犠牲者 (HayMarket Martyrs) の記念碑を訪問しました。これは米国の歴史的記念物にもなっています。記念碑に小松さんや私らが次々と献花し、犠牲者の墓地を見て回りました。

シカゴ市内に戻り Greek Town のパルテノンというギリシャ料理レストランで昼食しながら交流しました。ギリシャ料理はボリュームがすごいが、味は今ひとつでした。ここで労働史協会会長の Spivak さんから労働運動の発展を聴きました。



UE Hall の外壁の壁画



UE Hall 入り口

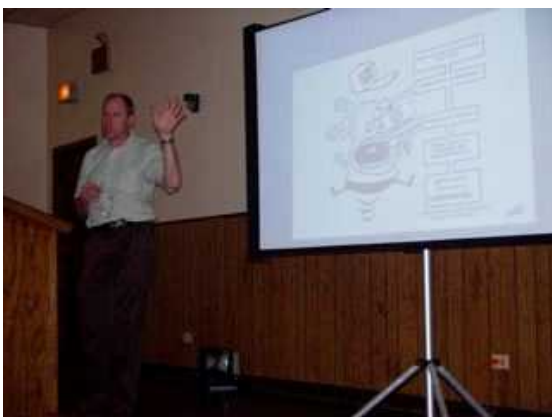


UE Hall 内の壁画。



階段の裏側にも連帯の壁画。

午後はUEの会館（UE Hall）を訪問しました。2階建ての会館の外壁にも壁画が描かれ、中に入ると階段周囲の壁にも闘争と連帯のダイナミックな壁画で埋め尽くされていました。UE Hallの会議室でUE1100の役員との交流をしました。小松さんが代表して全労連の活動を中心に報告、質疑応答で自治労連委員長の野村幸裕さんが日本の非正規労働者の闘いの現状を詳しく報告されました。





UE 委員長 Carl Rosen さんの説明。

2008 年 12 月 10 日の UE の勝利のポスター



原爆写真ミニパネルを贈呈。



質疑応答で話す野村自治労連委員長。

UE も非正規労働者の問題に取り組んでいる点で共通していました。

夕刻に De Paul 大学の階段教室でメーデー前夜祭企画として開かれたパネルディスカッション「メーデー120年：労働・社会運動国際会議」に参加しました。David マクレイノルズさん、USLAW/平和と繁栄、正義のための労働のエレーナ・マーチェスキーさんに続いて、私が被爆体験と被爆者と物理学者として核兵器廃絶の責任を持っていると報告しました。その最後に、「核兵器を背



De Paul 大学における「メーデー120年：労働・社会運動国際会議」の会場。

後に自国と同盟国の安全を確保するという核抑止論は、最後には核兵器を使うことで脅しているのです、被爆者として許されないと同時に、核兵器を必要としているので、核兵器のない世界に向かう最大の障害になる」と話しました。私の後、反戦イラク帰還兵の Allen Hugs 氏、最後に小松民子全労連副議長がパネリストとして報告しました。

全体の報告後に、フロアーからロシアと米国の戦略兵器削減条約が結ばれたがどう思うかの質問が私に対して行われました。私は、松元さんの助けを借りて「それなりの前進ではあるが、条約では米露とも戦略兵器を 1550 発持つことになり、米ロ以外の核保有国の核兵器すべてを合計した 680 発よりはるかに多いので、他の核保有国に核兵器廃絶条約の交渉を開始させるプレッシャーになるにはほど遠い。」と答えました。会場から沖縄から来た女性が普天間の報告をされたので、沖縄からグアムに移転することについて、グアム平和正義委員会の会長が 3・1 ビキニデー集会で、「普天間からグアムに海兵隊 8000 人が移り、メンテナンスなどをする軍関係者を加えると、グアムにおける軍関係者の人口が住民の人口を越えるので、選挙で住民の声は反映できなくなり、水の供給などの生活環境も壊されるので、簡単に沖縄から海兵隊をグアムに移すなどと言わないでほしい」と訴えられたことを紹介しました。さらに、海兵隊の訓練が、米国の若者の精神構造を殺人者に変えている様子をテレビで見たが、このような海兵隊は米国民にとっても廃止した方がよいと話しました。司会は シカゴ雇用正義のジェイムス・シンドアさんでした。

シンポジウムが終わって、夜はジャズの発祥地と言われる Velvet Lounge (ベルベット・ラウンジ) で素晴らしいジャズで演奏を聴きました。ジャズはシカゴの方がニューヨークより本場だったということでした。



ビールを飲みながらベルベット・ラウンジでのジャズ演奏を聴く。入り口に 1982 年にこのラウンジを開いた奏者の Fred Anderson さんが座っていた。

5月1日 メーデー

朝食はホテルで同室の鹿行民商会長の関口正司さんと昨朝同様に、ホテルのレストランですました。メーデーにふさわしい上天気になり、ホテルを出発する前に、皆さんがそれぞれ横断幕やプラカードの準備をされていました。

ハイマーケット事件記念碑の前で 120 周年集会。集会には、かつて労働運動で指導的な役割をしていた老人たちが車椅子などで参加し、紹介されました。



ホテルでデモ行進の準備。ハイマーケット事件記念碑で挨拶する Larry Spivack さん。



右 連帯の挨拶をする小松全労連副議長と通訳する松元さん。左 除幕された記念プレートには、全労連のマークの上下に日英両語で「国際連帯が、よりよい労働条件を求めてたたかう労働者にとって不可欠な手段であらんことを 全労連と日本のたたかう労働組合は、8時間労働を守り、全ての労働者の生活の向上、核兵器のない世界をめざし全力を挙げることを誓う ~希望に輝く未来のために~ 全労連 2010年5月1日」と記されていた。

全労連副議長の小松さんが連帯の挨拶をし、松元さんが通訳した後、ハイマーケット事件記念碑に貼った全労連の記念パネルを小松さんが除幕をしました。

記念碑のすぐ近くシカゴ北西駅の下の食堂で昼食をとった後、West Randolph通りの Union Park のメーデー会場に行くと、参加者が集まって次々と演説が行われていました。参加者は会場から溢れ後で10万人規模と聞きました。演壇で行われる演説はほとんどがスペイン語で、メキシコからの移民らは No AZ というプラカードで移民規制を強めているメキシコに接するアリゾナ州法を批判していました。シカゴはドイツや北欧系、さらに中南米やアフリカからの移民が多く、労働運動もこうした人種の違いを越えた連帯を重視してきたことが語られました。原爆に関する研究をした冶金研究所の科学者も亡命してきたドイツ人科学者が多く、シカゴの進歩的な雰囲気全人類的な視点で核兵器使用を犯罪的だとするフランク報告につながった背景があったと考えさせられました。



左 メーデー会場の壇上で挨拶する小松さん。通訳は松元さん。背後に菊池さんや安藤さん。右 横断幕を先頭にQコース参加者が並んでメーデー行進の出発準備。

日本から連帯してこのメーデーに参加していると紹介され、小松さんが壇上で横断幕を背景に連帯の演説をしました。会場から日本と米国の労働運動の連帯の拍手が沸きました。デモ行進の出発が遅れて、時間がなくなり、行進の出発直前に空港に向かわざるを得なかったのは残念でした。

シカゴを飛び立ったのは夕暮れ前で、途中クリーブランドの上空あたりでエリー湖が見えました。夜になって NY 市の北東部のラグアディア空港に到着、バスで予定通りペンシルバニアホテルに着きました。当日、タイムズ・スクエアで、爆発物を載せた自動車が見つかり、1日の夜到着した愛知代表団のHコースは、タイムズ・スクエア近くのパラマウント・ホテルに到着する寸前で、バスの中に3時間も閉じ込められたとのこと。

5月2日

ニューヨーク到着の翌朝、Qコース6班は班長の菊池さんら17人が、9時過ぎから11時までグランド・セントラル・ステーション前で署名行動を行いました。当初、Qコースは、日本から船便で送られてきた署名を、国連前のハマシヨールド広場に積み上げることを依頼されていましたが、今枝さんがどうしてもニューヨークで署名を集めたいと希望していたこともあり、Qコースの他の班で人数が足りたというので、菊池さんの判断で署名行動が出来るようになりました。17人で110人の署名を集めることができました。私はグランド・セントラル駅前で5つのグループが、色とりどり、日本文化を象徴する半纏を着て、太鼓や唐獅子で署名行動のパフォーマンスをしている様子を写真に撮って回っていたため、8人の署名を集めただけでした。他のコースやグループも、ペンシルバニア駅、タイムズ・スクエアなどで一斉に署名行動を展開しました。紫色の半纏を着た沖縄の矢ヶ崎克馬さん夫妻にも会いました。こうして「核



NY グランドセントラル駅前署名行動で Q コース 6 班 17 人の勢揃い。



グランド・セントラル駅前での「核兵器のない世界を！」の署名行動。
兵器のない世界を！」の国際署名は 690 万 1,037 名に達しました。

署名行動を終わって、国連までのデモ行進の出発点のタイムズ・スクエアに行くのと、揃いの緑色の T シャツを着た H コースの愛知県代表団にはじめて出会いました。タイムズ・スクエアに近い 7 番街の路上に演壇がつくられ、笛や太鼓が楽しそうに演奏されているところで、NPT 再検討全体の NGO の会議や行動の準備の中心になってきたガーソンさんに会いました。彼から、演壇前の 100 席くらいの白い椅子が並んだ被爆者席に被爆者を連れてきて欲しいと頼まれたので、タイムズ・スクエアに列をなして集まっている代表団から被爆者を椅子席に連れてきて座ってもらいました。椅子席は被爆者で埋め尽くされました。被爆者を先頭に、1 万人以上の人長い列を作って集会をするのは想像を超えるやり方でした。

集会では、広島・長崎両市長も演説、その後、高草木さんが報告。さらに集団訴訟仙台高裁で勝利した広島の被爆者の木村緋紗子さんが被爆体験を語り、

父を返せと訴えました。ベトナムの枯れ葉剤被害の訴えもあり、国際技術者・科学者ネットワークのライナー・ブラウンさん、勧告から平和的に米軍撤退と



7番街の舞台上で笛と太鼓。



7番街の集会の最前列から並んだ100人の被爆者。



平和市長会議を代表して秋葉忠利広島市長と田上富久長崎市長の訴え。



日本原水協事務局長の高草木博さん。広島での被爆を訴える被爆者の木村緋紗子さん。



アメリカ側で集会・運動を組織した J. Gerson さん。新婦人の平野恵美子さん。

朝鮮半島の統一の訴え、ジョセフ・ガーソンさんと新日本婦人の会の国際部長平野美枝子さんの訴えと続きました。

QuickTime? 2
 @LifÉvÉçEOÉâÉÄ
 Ç™Ç±ÇÄÉsÉNÉ`ÉÉÇ¼á©ÇÉÇ¼Ç¼Ç...ÇÖiKóvÇ-ÇÄB



広島市長らと被爆者が先頭でデモ行進が始まりました。私は、最初被団協の横断幕を持って歩き始めました。しかし、原水協代表団の代表なので、原水協の横断幕も持つことにしました。少し後ろに下がると、マーシャルのアバッカ・アンジャンさんもいたので、署名を一緒に NPT 再検討会議議長に渡すことになっている共同代表の新日本婦人の会事務局長米山淳子さんとアバッカさんの間で横断幕を持ちました。ニューヨーク市立図書館の前当たりにきたとき、署名伝達の時刻が迫ったので、デモ行進を抜けて国連に行き、デモ行進を待っているデュアルデ軍縮担当上級代表 (Sergio Duarte, High Representative for Disarmament Affairs of U.N.) と NPT 再検討会議の議長の Libran N. Cabactulan フィリピン大使と会ってほしいと言われて、米山さんとデモ隊を抜け出して国連本部に急ぎました。デュアルデさんとカバクチュランさんは、デモ隊の到着を待ってくれるとのことで NGO の役割を重視していることを示しました。



聖火を掲げてデモる広島市長と長崎市長。署名を受取る NPT 議長(左)と Duarte さん。

デモ隊がやや遅れて Hammarskjold Square (ハマショールド広場)に到着しましたが、広場に警備の柵が設けられて、署名伝達の国連の入り口前までには、広島市長・長崎市長ら一部の人が来れないとのことで、署名伝達は国連本部前一部の代表の前で行われました。署名伝達が終わって、NPT 議長とデュアルテさんに付いて署名が積み上げられているハマショールド広場に行こうとしましたが、私は広場を囲んだ柵のところで警官に阻止され、二番街から廻って入れというので、回り道をすることにしました。デモ行進が 1 車線分の幅に押さえられ、ハマショールド広場に柵が設けられて警備が厳しくなり、出入りが制限されたのは前夜のタイムズ・スクエアの爆弾騒ぎが影響したことが考えられますが、2003 年の 5 番街一杯にセントラルパークまで歩いた時のように出来なかったのは残念でした。

大回りをしている途中で、SEIU で団会議を開くのに向かおうとしている愛知の代表団に会い、セレモニーは終わったと聞かされました。仕方なく、積み上げられた署名のところに行くのはあきらめました。愛知代表団と一緒に SEIU に

メトロに乗って8番街41番通りのSEIUの講堂に行きました。SEIU (Service Employees International Union) は220万人の米国、カナダ、プエルトリコの保健衛生(病院、介護など)、地方公務員、守衛、用務員、給食などの労働者を組織しています。SEIUは日曜日にも関わらず愛知代表団のために会議場を用意し、水の準備もしてくれていました。ここで愛知県代表団が近くで買ってきたビールと食べ物で夕食をとった後、愛知県代表団の報告会に参加しました。私はQコースのシカゴでの経験を話しました。



5月3日

朝8時に国連本部に行き、入構証を貰うために行列しました。翌日の国連総会議場に入って、全国の過半数を超える市長、市議会議長らの1444名の署名をNPT再検討会議の議長に伝達するためです。田上長崎市長は朝の5時半から国連入り口で待っていたそうです。行列で待っている間に広島生協の人たちや焼津市の人たちといろいろ話しました。またノールウェイの核兵器ノーのウレ・コプレイタンさんと女性たちに、シカゴのシンポジウムで話した被爆体験記を渡して交流し、毎年世界大会に参加しているコプレイタンさんとともに、

今年の世界大会に是非参加するようお誘いしました。5時間余り行列してようやく入構証を入手しました。

午後2時から開幕した国連ロビーでの日本被団協の原爆展“A Message to the World from Hiroshima and Nagasaki”を見ました。2005年の時も、被団協の原爆展で、広島原爆の原子雲の写真の下に私が描いた長崎原爆の原子雲のイラストがあるパネルがあり、制作者名が増田善信さんとなっていました。田中被団協事務局長とパネルの制作者に訂正をお願いしておきました。



被団協事務局次長の木戸季市さん、私、長崎の牧山敬子さん、田中照己事務局長。



下図は私作成の長崎原子雲のイラスト。

原爆展示場での被爆者証言。



Riverside Church でのシンポジウム。話しているのは Dr. Joseph Gerson さん。

矢ヶ崎克馬夫妻らと国連を出てタクシーで Times Square まで、地下鉄で 116 番通りのコロンビア大学駅まで行き、原水協主催のシンポジウムが行われている Riverside Church に行きました。ちょうどガーソンさんが話していました。会場の写真を撮って、教会の控え室で遅い昼食を急いでとって、国連行きのバスに乗り込みました。

ニューヨークを中心に被爆者の証言活動を組織している Hibakusha Stories が準備して、レセプションとコンサート「未来の世代に広島・長崎を語り継ぐために」(“Passing on the Legacy of Hiroshima and Nagasaki to Future Generations”) に、須田明夫軍縮代表部日本大使とセルジオ・デュアルテ国連軍縮担当上級代表が被爆者の活動に敬意を表して被爆者を招待して下さいました。その集会に参加しました。須田軍縮大使に次いで福山哲郎外務副大臣が話しましたが、昨年鳩山首相が国連安保理事会で話した以上の前進は聞かれませんでした。その後デュアルテさんが被爆者歓迎の心のこもった挨拶をして下さいました。続いてブラジルの被爆者の森田隆さんと下平作江さんが被爆体験を語られました。

1924 年生まれの森田さんは召集されて広島の横川橋近く、爆心地から 1.3 km で被爆して後背部に火傷、原爆症にかかったが、1956 年に妻と 2 人の子どもを連れてブラジルに移住し、苦勞して子どもを育てたそうです。60 才になった 1984 年に海外居住被爆者にも日本と同じ法律の適用を求めて「在ブラジル原爆被爆者協会」を設立しました。何度も日本に来て、在外被爆者に対する行政の矛盾と問題点を指摘しましたが、2001 年に厚労省を相手取って裁判を起こし、2007 年 2 月に在ブラジル被爆者にも健康管理手当を支給すべきとの最高裁判決を勝ち取り、2008 年 7 月広島地裁判決で、在ブラジル被爆者に被爆者健康手帳を支給すべきとの全面勝訴を勝ち取り、今日の在外被爆者も在日被爆者と差別して

はならないという状況をつくり出しました。



森田隆さん。 下平作江さん。 コロンビアの歌手ルチア・ブリードさん。

次いで下平作江さんが感動的な被爆者証言をして下さいました。下平さんは10才のとき爆心地から800mの長崎市油木町の防空壕で被爆し、気絶しました。気がつくと防空壕は、焼けただれた人、目や舌が飛び出ている人、腸が飛び出ている人で一杯でした。外では、勤労奉仕の生徒が、顔が目も鼻もわからないかぼちゃのように腫れ「母ちゃん、母ちゃん」と泣き叫んでいた様子を語りました。「母も兄も姉も失い、一緒にいた妹と義父だけ助かり、その後得体の知れない病気で苦しい生活が続いた。妹も懸命に頑張っていたが、病気と母を恋しがって飛び込み自殺をした。死ぬのも生きるのも勇気がいり、私は生きる方を選んだ。いま生きていて、核兵器のない世界を実現させるために、自分の体験を語っていることで、私は生きる方を選んでよかったと思う」と語りました。

2人の話しが終わってコロンビアの歌手ルチア・ブリードさんがすばらしい声で歌い、バス楽器とサクソホンの演奏があり、森田さんは司会者の女性とダンスを踊ってみせました。

5月4日

午前中はホテルの代表団事務室で写真の整理などをしました。12時に京都原水協の小杉功さんとタクシーで国連本部へ行きました。高草木さんの足跡を尋ねて4階の総会議場傍聴席を経て平和市長会議の開かれている国連本部北側の別棟にある大きな第4会議場で土田さん、ガーソンさん、ブラウンさんらという高草木さんを見つけました。ちょうど田上長崎市長が報告をしていました。土田さんは特別カードを貰った人しか入れないので、私は無理かもしれないと思っていました。総会議場への案内人が各国NGO代表や広島・長崎両市長らを

連れて行くところで、うまく NPT 再検討会議が開かれている総会議場に 13:00 から 14:00 まで入るオレンジ色のカードを入手でき、会場に入ることができました。デュアルデさんと NPT 再検討会議のカバクチュラン議長に市長・議長らの署名を高草木さんとともに渡しました。

国連本部ロビーの原爆展のところで被爆者証言をしている名古屋在住の被爆者道上昭雄さんを見つけ、その様子を写真を撮り、その後、総会議場の 4 階に道上さんを案内しました。地下の売店で孫たち向けのお土産として国連の帽子を買いました。

夜は非核の政府の会の人たちと韓国料理店「西川」で交流しました。

翌朝 5 月 5 日 7:00 に Q コースはホテルをバスで出発、シカゴ経由で成田に着いたのは 5 月 6 日の 15:30 でした。Q コースの皆さんは労働組合の方々が中心でシカゴとニューヨークでの労働者との交流で大きな成果を上げました。